

第 23 回 京都府北部福祉人材確保・定着戦略会議 議事録

○開催日時

2025 年 10 月 6 日（月）

○開催場所

市民交流プラザ福知山別館（対面・オンライン併用）

○議題

- （１）京都府北部の介護・福祉人材確保事業について
 - ア 京都府北部福祉人材養成システムについて
 - イ 京都府介護・福祉人材確保総合事業について（北部地域関連）
- （２）京都府北部福祉人材養成システムの進捗について
 - ア 京都府北部福祉人材養成システムに係る 3 拠点の取組状況について（現任者研修・養成校・実習センター）
 - イ 京都府北部 7 市町の取組状況について
- （３）意見交換

○協議概要

1. 開会（挨拶：京都府）

2. 議題

- （１）京都府北部の介護・福祉人材確保事業について
京都府北部の介護・福祉人材確保事業の概要を説明
- （２）京都府北部福祉人材養成システム推進進捗について
 - ア 京都府北部福祉人材養成システムに係る 3 拠点（現任者研修施設・介護福祉士養成校・総合実習センター）の取組状況について

○現任者研修施設

今年度における各研修の実績については、以下のとおり。

研修名	参加者数
介護福祉士実務者研修	38 名
介護福祉士初任者研修	22 名
チームリーダー研修（舞鶴市会場）	25 名
チームリーダー研修（京丹後市会場）	18 名
チームリーダー研修（振り返り研修）	11 名
新人（初任者）職員研修	22 名
虐待防止研修	32 名
福祉専門職記録の書き方研修	15 名
中堅職員 O J T 担当者研修	12 名

○介護福祉士養成校

- ・令和 7 年度入学者は 12 名で定員充足率は 30%。過去最も少ない入学者数となった。
- ・令和 6 年度の卒業生は 16 名。
- ・全国の介護福祉士養成校の定員充足率は 58%。うち 57%が外国人である。
- ・今年度、京都市と連携し、京都市内の事業所で働く外国人職員を対象に介護福祉士国家試験対策講座の開催を予定している。
- ・府北部地域で外国人に働いていただくためには、住居や移動手段に関する検討が必要ではないか。また、人材確保については、小・中・高校生を対象とした介護職の魅力発信も重要だと考える。

○総合実習センター

- ・学生向けの職業体験としてオープンカンパニーや中・高生向けのボランティア受入れ等を実施。若手職員と対話する機会を設けることで、どのような目標をもって働いているか等、福祉の魅力を伝えている。
- ・他法人と協働した体験受入れにより、地域性の違い等も学べるよう工夫している。

イ 京都府北部 7 市町の実施状況について

○舞鶴市

令和 7 年度 9 月補正で以下事業について、予算要求をしたところ。

補助金名	補助額
福祉人材復職奨励金	10 万
福祉人材転入奨励金	20 万
福祉人材転入者家賃補助金	月 3 万まで
ヘルパー就労奨励金	20 万
外国人人材家賃補助金	月 3 万まで
外国人人材移動支援補助金	対象経費の 1/2
継続就労奨励金	5 万

○宮津市

令和 7 年度の新規事業は以下のとおり。

補助金名	補助額
宮津市未来を担う人財応援奨学金	無利子での貸与
宮津市ふるさと就職支援補助金	奨学金の一部支援

○質問等

(京都府)

宮津市の「宮津市ふるさと就職支援補助金」について、事業者からの申込み状況はどうか。

(宮津市)

今のところ事業者からの申込みはない。

(京都府)

広報等協力できることを検討していきたい。

(京都府)

舞鶴市の新規事業について、補正予算を要求した経緯はどうか。

(舞鶴市)

市内の事業所が立て続けに休止したこともあり、早急に手立てを打たなければならないという危機感から次年度の当初予算を待たず予算要求したもの。

(3) 意見交換

<外国人材について>

○外国人介護人材支援センター

外国人介護人材支援センターの概要を説明

○京都府

各事業所において、外国人職員を受け入れる際の課題はどうか。

○京都府老人福祉施設協議会

- ・自法人では令和5年度から5名の外国人職員を特定技能で採用したが、現在3名が退職。3名のうち1名は母国に帰国し、2名は他府県の事業所へ転職した。外国人職員は母国へ仕送りするため、家賃補助の有無や給与額等でより好条件で働くことを望んでいる。
- ・また、北部地域は買い物などのプライベートにおいても交通アクセスが悪いため、敬遠されることがある。

(京都府)

外国人職員の住居は法人が民間の物件を借り上げているのか。

(京都府老人福祉施設協議会)

法人として物件を借り上げて外国人職員でシェアしていたが、プライバシーの観点から不満の声も聴いていた。

○京都府老人保健施設協議会

- ・自法人には6名の外国人職員が在職している。
- ・結婚などを機に退職した事例もある。
- ・法人内で週1回の日本語教室を実施している。
- ・ゴミの分別など生活支援にも課題があると感じている。

○介護福祉士養成校

- ・事業所から特定技能等の外国人職員のスキルアップのため、養成校へ入校させたいという問い合わせを受けることがある。
- また、日本語学校に通う留学生からも入校に関する問い合わせがある。

○京都府介護福祉士会

- ・外国人介護人材支援センターの介護技術向上研修の講師を担当している。
- ・また、資格取得支援として介護福祉士国家試験の対策講座を実施している。
- ・自法人では日本語学校に通う留学生のアルバイト就労を2名受け入れており、卒業後に京都府の修学資金を活用して、介護福祉士養成校へ入学する予定である。

○京都府社会福祉士会

- ・都会に憧れのある外国人職員も多い。自法人では出張などの機会を活用して都会へ同行することがある。
- ・北部地域における課題である移動手段の確保については、継続した検討も必要ではないか。

○現任者研修施設

- ・平成30年度から令和3年度までと令和6年度に外国人職員の受入れに関するスタッフ研修を実施した。
- ・介護福祉士実務者研修については、令和3年度以降26名の外国人職員が受講し、うち5名が介護福祉士の国家試験に合格した。
- ・自法人で雇用している外国人職員は、より条件の良い都市部の事業所へ転職することが多い。
- ・福知山市では、特別養護老人ホームやデイサービス等で外国人職員を雇用している事業所が多く、外国人職員なしでは現場は回らなくなっている。市の取組として、外国人職員を対象に定着支援金制度を実施していただいているところ。

○質問

(京都府)

各法人で日本語の研修などを実施されているが、法人間で協働して実施することは可能か。

(現任者研修施設)

福知山市内は製造業などで働く外国人が多く、業種を越えて様々な企画を行っているが、人が集まっていないのが現状である。自法人において、年1回作文発表会を開催しているが、どこの事業所も忙しく、対応する余裕がない。

(福知山市)

福祉分野に特化した取組・イベントではないが、別部署で日本語支援ボランティアや外国人向けイベントを開催しているものの、参加者数は低調となっている。

(京都府)

外国人職員の生活支援として、ゴミ出しの話も出たところ。市町における生活支援はどうか。

(福知山市)

市民生活関連部署で英語、中国語、韓国語などそれぞれの言語でパンフレットを作成し、配布している。

(京都府)

今後は福祉関連部署以外の外国人支援に関する取組も共有していきたい。

○京都府

今後はいかに外国人職員に定着していただくかという点が重要である。介護福祉士実務者研修や日本語の勉強などを事業所だけで担うことの難しさなどがあれば共有いただきたい。

○意見

(京都府老人福祉施設協議会)

介護福祉士の受験に当たり、事業所として対策講座等を実施しているが、日本語が難しく、複数回受験しても合格できない方もいる。合格しやすい試験となるよう、国に要望できないか。

(介護福祉士養成校)

介護福祉士の質を担保するうえで、試験水準の維持は重要であると考えている。

3. 閉会（挨拶：京都府）